

養護教諭をめざす学生の臨床実習への心構えについて

木野本はるみ

臨床実習は、養護教諭をめざす学生にとって将来行う養護活動に必要な看護知識・技術について実践的訓練を受ける場である。社会構造の変化により、児童・生徒の疾病の多様化に伴い、より高度な医学・看護学の知識・技能が要求されてきている。これらのニーズに応えるために、より充実した臨床実習が必要である。臨床実習を間近に控えた学生たちの緊張と不安感は計り知れない。この学生たちは、果たしてどのような心構えをもって臨床実習に取り組むのか、今回、この実習が今後もよりよく充実したものにしていくため、過去の学生の反省および1年生の事前意識調査と実習病院のコメントをふまえ、臨床実習への心構えについて考察した。

【臨床実習で学ばせたいもの】

- ・専門知識としての役割、態度 ・対象の理解と対象のとの関係 ・危機管理
- ・基本的看護技術の修得と応用 ・医療従事者のチームワーク ・看護観 ・感性
- ・意欲 ・意識などである

【実習の反省から見えたもの】（別紙）

- ・実習も目的・目標をしっかり持って、積極的に行動する。
- ・責任感をもち、意欲的に行動する。など実習に対する心構えは全体的にみて前向きの姿勢が見られたが、実習病院からのコメントは、「実習の目的意識の欠如」を指摘されることが多い。前向きな心構えを持ちながら、自己目的が明確に相手に伝わらない理由は何なのか。緊張感が強度で答えられなかった。病院の雰囲気と他のナースが大勢いる前でパニック状態でうまく答えられなかった等々（概略）

【考 察】

実習に臨むためには、目的意識は重要なことであり、事前指導のポイントである。積極的な心構えの姿勢が相手に伝わらない。表現力の乏しさからこのような結果が生まれることも考えられる。ただ一度の質問に答えられなかったために、目的意識の欠如と捉えられる場合もある。紙上での心構えではなく実習に取り組む強い心意気が欲しいものである。

【まとめ】

臨床実習に限らず、何事においても結果を恐れずに自分の内にしっかりとした心構えを確立し、事に臨むことは大切である。臨床実習に臨み重要なことは、学生がそれぞれを述べているように、その心構えの上で自分で課題を見つけ、判断し、行動して問題を解決する能力を養ってほしい。そうすることによって、臨床実習が今後自分の人生に生きる力となることを確信する。